

褥瘡予防パットの効用についての一考察

中5階病棟 発表者 草 深 幸 子

池 田 てるみ・藤 原 昭 子・前 島 津 弥 子・中 村 千 勢 子
山 川 弥 生・竹 村 滋 子・大 曾 契 子・宮 下 とし江
荻 原 直 美・桜 田 恵 智 子・小 林 栄 子・小 穴 とし子
続 麻 久 美 子

I はじめに

看護の中で「安楽」への援助は重要な位置をしめており、その補助用具も多種多様なものが考案され使用されている。最近では、「ベスタンパット」、「スタソフト」、(以下シープスキンと総称する。)などと呼ばれる褥瘡予防パットが「快適」、「衛生的」、「手入れが簡単である」というキャッチフレーズで市販されている。

当病棟においても今年より使用し始め、褥瘡予防だけでなく腰痛の軽減など安楽についてより効果的な使用方法がないだろうかと考え今回、長期臥床患者・術後の臥床患者・検査後の安静患者に対してチェックリストを用い、患者の反応を調査し安楽について検討したのでここに報告する。

II 研究期間

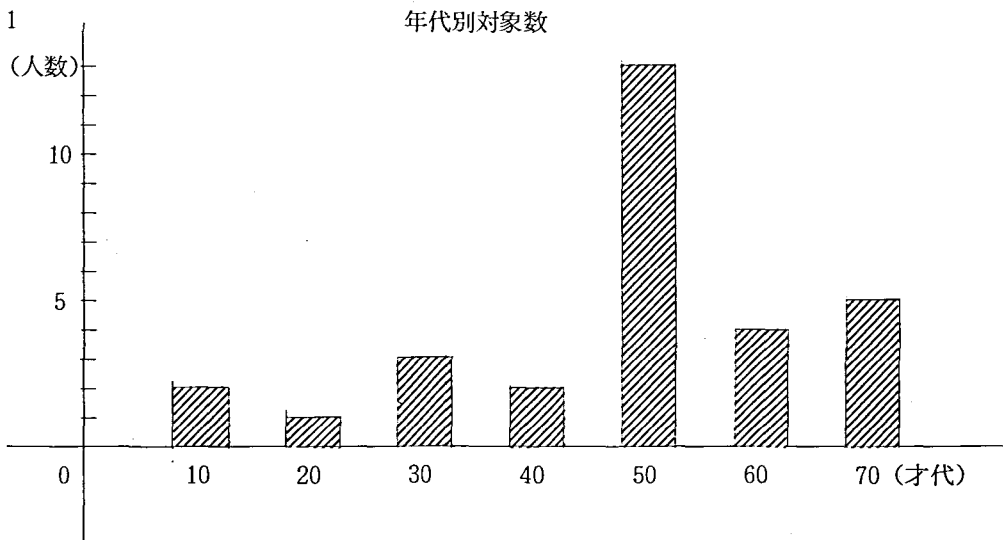
昭和59年1月～昭和59年5月

III 研究対象

計30名

- | | |
|--------------|-----|
| ① 術後臥床患者 | 19名 |
| ② 血管造影後の安静患者 | 12名 |
| ③ 腰痛を訴える患者 | 5名 |
| ④ 褥瘡形成患者 | 4名 |

図1



IV 研究方法

チェックリスト（資料1参照）を用いた問診方式で、毎朝10時、患者の反応を調査した。シーブスキンの使用期間については、研究対象①術後～起立可能まで、②検査後～安静解除まで、③④適宜とした。また、使用部位については原則として背部～大腿部までとした。

V 研究結果

(1) チェックリストより

資料2より年代別にみると40才代を境に発汗・熱感・温感に差がみられた。

資料3・4より10～40才代においては、発汗あり92%、熱感あり79%と多く、中には、その日のうちにシーブスキンを除去してしまう患者もいた。その反面、資料3・4より50～70才代においては、発汗なし68%、暖かい68%であり、暖かくふかふかで気持ちが良いというのが多かった。

発赤・切れ目の違和感のあった患者はひとりもなく、しわの跡のあった患者は1名のみで割合としては4%と少なく、背部・仙骨部等の褥瘡好発部位に発赤の出現はみられず、圧迫による癬痕などもなかった。

褥瘡形成患者個々について説明すると、入院時既に褥瘡を形成し褥瘡部植皮術を施行した患者においては、左腸骨部に水泡を1ヶ形成したが現在は軽減している。また、以前後頭部に褥瘡を形成した頸部の絶対安静患者では、軽度の発赤のみでとどまった。また、常に腰背部痛を訴え背部に発赤を認めた癌末期患者においては、疼痛の軽減にはならなかったが「からだ全体が楽だ」という言葉も聞かれ、発赤はまもなく消失しその後も褥瘡は出現していない。

資料5よりシーブスキンを使用して腰痛があった患者は全症例で23%と少なかった。その中でも、血管造影後の安静患者（研究対象②）については、資料6より、昭和59年1月からの血管造影患者でシーブスキンを使用しなかった23名に対して腰痛のあったものの48%であったが、シーブスキンを使用しての腰痛は25%と少なかった。また、腰痛を訴える患者（研究対象③）については、資料5-③より、シーブスキン使用后、5名中1名が腰痛を訴え、割合としては20%と減少した。

(2) その他の訴えより

脊椎疾患の術後仰臥位安静患者では、排便時紙おむつがずれたりネルがまるまわって、シーブスキンが汚染されても、厚みがある為一旦挿入すると絶対安静が解除されるまで交換ができず、不快であるという訴えがあった。

また、マットレスで腰背部の創痛を訴えていた患者に使用して、シーブスキンにより創部がマットレスのひずみに触れず創痛の軽減になったという声があった。

その他、寒い現在では良いが、夏に向けて暑いという訴えや、長期使用患者から汚れが気になり不快という訴えもあった。

IV 考察

以上の結果より、シーブスキンは保温性に富む為、新陳代謝の盛んな40才代まででは暑く、発汗が多く不適であり、50才代からは暖かくふかふかで気持ちが良いと適していたと思われる。

また、高齢者の入院が増加し、術後は臥床期間がどうしても長期になりがちであり、褥瘡予防は

大切なケアの一つである。患者の全身状態、特に栄養状態にも関係してくる。褥瘡は形成されてからでは遅く、予防の働きかけが大切である。シープスキンは無数の伸縮性のある合成繊維のファイバーが褥瘡好発部位の圧迫を平均に分散し皮膚の摩擦を減少させ柔らかげる為、褥瘡予防パッドとしての効果を得ることができたと思う。さらに、円座やスポンジあるいは体位交換などを併用していけば、患者の安楽についてのより効果的な方法になると思う。

腰痛については、腰部にタオルを挿入したりマッサージ・湿布・板の使用などを施行してきたが、シープスキン使用後からは腰痛の訴えが減少し、検査後の安静患者の腰痛に対しても効果的であることが発見でき、この研究に取り組んだ成果があったと思う。腰痛軽減に対しては精神面からも配慮し、「安静にしていなくてはいけないんだ」という過度の緊張も一要因となると考え、シープスキンを挿入する時に「これを敷くから大丈夫ですよ」という言葉がけを行ない精神的な緊張緩和に努めた。今では、腰痛・背部痛のある患者から「あのふかふかの布団を入れてほしい」という言葉も聞かれるようになり、臥床による腰痛軽減の一对策となることができたと思う。

しかし、ファイバーの毛足が長い為汚れがつき易く、便などで汚染された場合は、特に長期絶対安静患者には交換が困難であり、清潔が保たれず患者・介助者に不快感を与えてしまう。よって、交換が困難な患者に使用する場合は、考慮して使用しなければならないと思う。また、消化器疾患の術後などでは、浸出液・発汗が多い為湿気と汚染で気分不快を与えてしまう。シープスキンの使用により、湿気は直接シープスキンの繊維に細かく分散して通過する為、乾燥していて気分不快を与えないという利点はあるが、その反面、気がつかないうちにシープスキンの下のシーツを汚染していることがある。従って浸出液・発汗が多い患者に使用する場合は、シープスキンの下のシーツなどにも注意をはらう必要がある。

さらに、今後残された課題としては、

- ① 長期間の使用により合成繊維のファイバーが倒れ汚染してくるが、どのような状態になればその効果が失われてしまうのか。
- ② 何日おきに交換したら良いのか。
- ③ シープスキンの文献には直接皮膚に接することがより効果的であると書かれているが、今回は、ネル又は着物を着用するように統一した。その為、熱感・発汗の程度やシープスキンとしての効果に変化があったのだろうか。
- ④ 研究期間が冬～春という肌寒い時期であった為、これから夏期に向かって暑くなり、患者の訴えが変化していくと思われるが、気温・湿度など室内環境と発汗・皮膚温などにどの程度関連性があるのだろうか。

さらに取り組んでいきたいと思う。

Ⅶ おわりに

当病棟においてシープスキンを使用し始めたのが最近のことで、研究期間が短かく、資料や症例数が少なかったがしかし、今では、「あのふかふかの布団を入れて欲しい」という言葉も聞かれるようになり、褥瘡予防だけでなく安楽についての一对策としても効果をあげてきている。より安楽な入院生活を送れる様援助していきたい。

最後に、この研究にあたり御協力いただいた方々に深く感謝致します。

<参考文献>

- 高橋定雄：褥瘡の治療，リハビリテーション医学，1972
- 山田道廣：体位から見た体位変換管理，看護技術，1979
- 鎌田ケイ子他：老人の褥瘡予防に関する調査研究，看護学雑誌，1978
- 横関徳二他：褥瘡予防の特殊エアーマットを使用して，看護技術，1977

資料1

チェックリスト

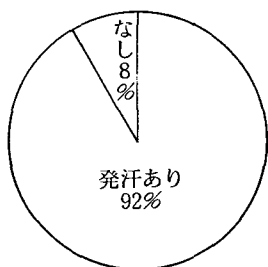
チェックポイント	月	日	月	日	月	日
・背部の状態						
乾 燥						
湿 潤						
発 赤						
しわの跡						
・訴 え						
熱 感						
発 汗						
腰 痛						
気分不快						
境の違和感						
・そ の 他						

資料2

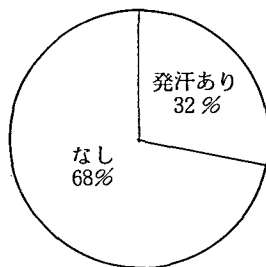
発汗・熱感についての年代別割合

年代	10	20	30	40	50	60	70
発汗あり(%)	100	100	66	100	31	25	40
熱感あり(%)	100	100	66	50	23	25	20
暖かい(%)	0	0	0	0	54	75	80

資料3 発汗についての割合

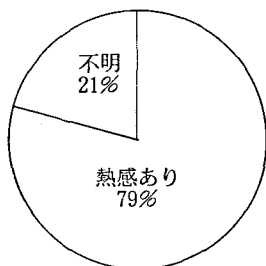


10~40才代

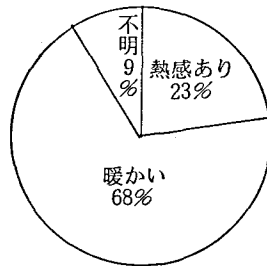


50~70才代

資料4 熱感についての割合

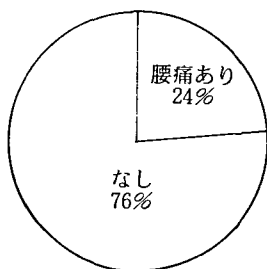


10代~40才代

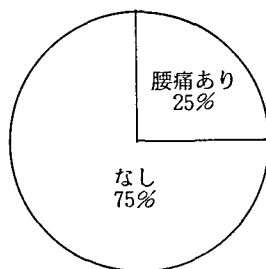


50~70才代

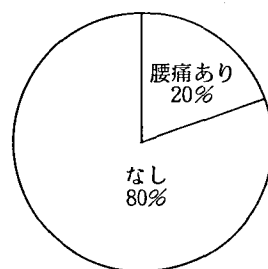
資料5 腰痛についての割合



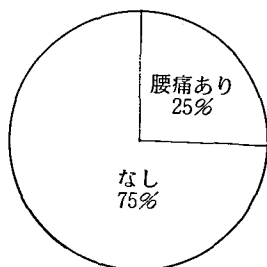
①術後患者



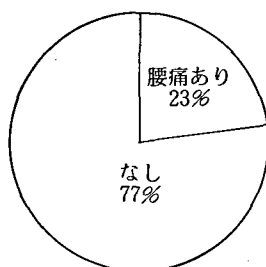
②血管造影後の患者



③腰痛を訴える患者



④褥瘡形成患者



⑤全症例

資料6 腰痛について、シープスキン購入前の血管造影後の患者と研究対象②の比較

